

津軽りんご市場連絡協議会組合長会議 令和6年7月22日

令和6年産りんごの生育状況及び 今後の管理について

公益財団法人青森県りんご協会

小野 充貴



Aomori Apple Association

公益財団法人青森県りんご協会

令和6年産りんごの生育状況は

- 暖冬小雪となり生態は平年より11日早くスタート！！
- 開花量は「ふじ」「早生ふじ」にバラつきが見られる・・・
- 結実量は「ふじ」を中心に中心果が足りない。品質が悪い。
- 黄色品種は比較的結実量はあるが、品質が揃わない。
- 7月21日現在「ふじ」の肥大は平年比〇%と良好！？

果実肥大（7月21日時点 りんご研究所 黒石市）

品種	本年	平年	昨年	平年比
つがる		6.4	7.2	
ふじ		5.5	6.5	



果たして肥大は順調か・・・

今年の「ふじ」の横径肥大は…

月日	本年 (㍉)	本年肥大率 (%)	平年比 (%)	平年 (㍉)	平年肥大率 (%)
6月1日	2.5		156	1.6	
6月11日	3.3	0.8	127	2.6	1.0
6月21日	3.8	0.5	108	3.5	0.9
7月1日	4.5	0.7	107	4.2	0.7
7月11日	5.4	0.9	110	4.9	0.7
7月21日				5.5	

今年の降水量は (りんご研) …

6月は平年に近い降水量であるが、
降雨日 (有効雨量5㍉以上) は
24日と30日の2日のみ…

月	本年 (㍉)	平均 (㍉)	平均比 (%)
4月	41.5	58.9	70.5
5月	34.5	70.5	48.9
6月	61.5	72.0	85.4
7月21日		83.0	

肥大順調！今年ツル割れは多く発生するのかな？

昨年の生態は「ふじ」で平年より約2週間早く進んだ！

→昨年の夏場（本県指数「満開後71～120日（7月11日～8月29日）」の降水量が
平年と比べて88%と少なかった。

【長野県での基準にもあるように『ツル割れ』の発生要因は
夏場以降の降水量、弱小芽の果実や側果に発生する】

昨年の本県における『ツル割れ』の発生率は3.8%（平年7.2%）と
少なく推移した！！

本年についても「ふじ」の生態は平年より約10日早く進んだ！

本年の本県指数「満開後71～120日」の期間は「7月22日～9月9日」が該当となる。
要するにこの期間に降雨が多いと発生が見られる可能性が高まると考えられる。

本年の本県では、開花量が少なかったことや中心果結実が悪く側果対応していることから…

→昨年より発生する可能性は高い…？




早生種の生きる道は〇〇栽培！？

去年の経験を活かして！！

昨年7月の真夏日数は9日！同8月の真夏日日数は23日！猛暑日日数は4日！！

【真夏日30℃以上・猛暑日35℃以上】

東南～南西向きの日当たりの良い果実は最高気温プラス15℃以上の果面温度になる！！

日当たりの良い果実の果面温度:外気温(最高気温)にプラス15℃程度		
壊死型	褐変型	光酸化型
果面温度 52±1℃で発生 (最高気温 35℃以上)	果面温度 46～49℃で発生 (最高気温 30℃以上)	可視光領域の光 ※果面温度の上昇や紫外線の照射では発生しない
		



葉とらず栽培でロスは1割程度！？



Aomori Apple Association

公益財団法人青森県りんご協会

病害虫の発生状況は…病害

昨年多発した「褐斑病」…

昨年の初発は5月29日（平年は6月17日）！
7月中旬に4日程度まとまった降雨があり、下旬から多発！

今年の初発は5月31日！！ほぼ昨年並み！！
昨年との違いは、6月下旬と7月の梅雨があること…

二次感染後病斑が見えるまでは、10日程度！
つまり、6月下旬から7月上旬の降雨での感染があるとすると、7月中旬（昨年より早く）葉上病斑が見えているはず…。



病害虫の発生状況は…害虫

○「コガネムシ」

→薬剤が直接かけることが必要・・・

薬剤としては「ピレスロイド剤」

「ジアミド剤（エクシレル・ヨーバル・テッパン）」

○「ナシマルカイガラムシ（サンホーゼ）」

→今年の薬剤での対策時期は過ぎた・・・

次年度芽出し前の「マシン油50倍」！

スプレーヤ散布はダメ！？

◎「コンフューザーR」元年！！

今年防除暦採用！設置率が全県で25%（約5,000^台）・・・

輸出が好調！殺虫剤減！将来的な経費削減！

ぜひ次年度以降は全面積設置で本県りんごを国内外へ届けましょう！！



今後の管理は全員違う！！

- ・着果量があるのか？
➔今年「ふじ」を中心にバラつきがある…
- ・着果量はあっても中心果はあるのか？
➔「ふじ」を中心に少ないのではないか？
中心果が無いのは「ふじ」だけなのか？
- ・品質を揃えられるのか？
➔側果対応は何割くらいか？
「男りんご」多くないか？
- ・樹勢は強くなっていないか？
➔着果量が少ないと樹勢バランスが崩れる…
徒長枝の出方、太さは例年と同じか？



県外の生育状況は…

○岩手県

開花量もあり、結実量もしっかり確保している！

中心果は若干少ない所もあるが、問題はない！

岩手県では県オリジナル品種「紅いわて（早生種）」と「はるか（冬恋）」の生産量が増加中！

○秋田県

結実量は園地や地域によって若干のバラつきがあるが、平年並みは確保できる！！

平成22年と令和2年の豪雪を乗り越えて復活中！！

本県でも多く出ている「三島ふじ」が人気の系統！！

○長野県

結実良好！若干中心果が少ないところもありそうだが、問題にならない！

今年は霜害などが無いため順調！！



公益財団法人青森県りんご協会は りんご生産者の仲間！！

- りんご生産者への情報発信！！
- りんご生産者のための立法活動！！
県や国の補助事業は本会の立法活動によるものが多い！！
- りんご生産者への栽培指導！！
- 生産者団体として会員数が組織力となり、
立法活動による言葉の説得力が増します！！

是非、皆さんで本県りんご産業を守り、
維持・発展に繋げましょう！！

